

看護学部
MAEHARA Sumiko
PROFILE
職名 看護学部 看護学科教授 看護学部長
学歴 東京大学医学部衛生看護学 科卒業（1959）
学位 医学博士（山形大学、1984）
所属学会 日本母性衛生学会、日本看護 研究学会、日本思春期学 会、日本女性心身医学会、 日本看護科学学会、日本更 年期医学会、日本母性看護 学会、日本災害看護学会、 日本家族看護学会
専門分野 母性看護学

前原 澄子

まえはら すみこ

研究課題1 ● 母性の発達

業 績

【著書】

『助産学講座4 助産診断学』／「序章 助産診断学」、医学書院、1991年7月、共編著。
『助産学講座5 助産技術学』／「母性の各ライフステージにおけるケア」、医学書院、
1991年6月、共編著。
『母性看護学(1) 第7版』／「母性看護の概念」「母性の特性」「母性看護の技術」「健
全な母性への準備の看護」、医学書院、1992年1月、共著。
『図説新臨床看護学全書1 母子・小児の健康と看護(1)』／「母子・家族・社会と看
護」、同朋舎、1996年3月、共著。
『助産学講座1 助産学概論』／「助産婦教育の基本理念」、医学書院、1997年1月、
共編著。
『助産学講座6 助産診断・技術学』／「助産技術とは何か」「母性の各ライフステー
ジにおけるケア 家族と母性」「更年期のケア」、医学書院、1997年3月、共編著。
『Women’s Health 女性が健康に生きるために』／「Reproductive Healthとは E
社会的特徴」、南江堂、1998年3月、共著。
『系統看護学講座 母性看護学概論第9版』／「母性看護の概念」「母性の特性」「母
性看護の沿革と現状」「母性看護の技術」「女性のライフステージにおける母性看
護」「思春期の女性の看護」「向老期の女性の看護」、医学書院、1999年1月、共著。
「医療福祉学の道標／全人的医療への医療福祉」、金芳堂、2011年1月、共監著。

【学術論文】

「分娩後の婦人の疲労感について」／『母性衛生』28巻2号、1988年6月、共著。
「産婦の不安を軽減するための看護の方法」／『日本看護科学学会誌』10巻2号、
1990年10月、共著。
「母性性の発達に関する研究」／『思春期学』8巻4号、1990年12月、共著。
「産婦の不安を軽減するための看護の方法に関する研究—自律訓練法による
Relaxation効果からみて」／『日本看護科学学会誌』11巻1号、1991年6月、共著。
「母親の胎児への愛着形成に関する研究」／『日本看護科学学会誌』13巻2号、1993
年10月、共著。
「性周期と情動ストレス負荷による精神生理学的反応」／『母性衛生』36巻1号、
1995年3月、共著。
「産婦の不安を軽減するための看護の方法に関する研究—夫の付き添い分娩の効果
からみて—」／『母性衛生』36巻2号、1995年6月、共著。
「体外受棉により出生した児をもつ母親の対児イメージと不安について」／『母性衛
生』37巻2号、1996年3月、共著。
「産婦の不安を軽減するための看護の方法に関する研究」／『千葉看護学会会誌』2
巻2号、1996年3月、共著。
「女性の避妊行動に関する研究—行動科学的モデルを用いて—」／『母性衛生』38巻

1号、1997年3月、共著。
「妊婦期における母親役割獲得 プロセスと共感性の関連について」／『日本看護科学会誌』17巻4号、1997年
12月、共著。
「更年期女性の健康問題とヘルスプロモーション」／『Quality Nursing』3巻5号、1997年5月、単著。
「周産期医療従事者への教育」／『周産期医学』28巻1号、1998年1月、単著。
‘Japanese and Brazilian maternal bonding behavior towards preterm infants:A comparative study’／
『Journal of neonatal Nursing』、1998年1月、共著。
「Discordant twin の看護上の問題に関する考察」／『母性衛生』39巻4号、1998年12月、共著。
「働く母親の適応に関連する要因の分析」／『日本看護科学学会誌』19巻3号、1999年11月、共著。

【翻訳】

『助産学研究入門—エビデンスにもとづく実践をめざして』（スー・プロクター、メアリー・レンフル著）／医
学書院、2003年4月、共訳、監訳。

【国内学会発表】

「体外受精・胚移植法による治療患者の心身医学的研究 第2報—不安とその関連要因について—」／第35回
日本母性衛生学会学術集会（東京）、1994年10月、共同。
「不妊女性の心理と情緒的なサポート源の特徴—体外受精を受けている女性を対象として—」／第14回日本看
護科学学会（大宮）、1994年10月、共同。
「思春期女子の自己受容と性役割意識の関連」／第15回日本思春期学会学術集会（東京）、1996年8月、共同。
『「生殖と健康シンポジウム」Perinatal care』／中日医学交流会（成都）、1996年11月、単独。
「妊娠期の母親役割獲得過程の5つの操作に対する看護介入の検討」／第38回日本母性衛生学会学術集会（鹿
児島市）、1996年10月、共同。
「出産経験のとらえ方の尺度の検討」／第38回日本母性衛生学会学術集会（鹿児島市）、1997年10月、共同。
「助産婦学生のケアの実践の分析」／第38回日本母性衛生学会学術集会（鹿児島市）、1997年10月、共同。
「双胎妊娠の妊婦のストレスと看護について」／第39回日本母性衛生学会学術集会（前橋市）、1998年10月、
共同。
「双胎児の育児による問題と、対処行動について」／第39回日本母性衛生学会学術集会（前橋市）、1998年10
月、共同。
「妊娠期の母親役割獲得過程に関するアセスメントガイドの検討」／第39回日本母性衛生学会学術集会（前橋
市）、1998年10月、共同。
「双胎妊娠妊婦の不安に関する検討」／第40回日本母性衛生学会（横浜市）、1999年9月、共同。
「医療過疎地域における良質な周産期母子ケア提供のための助産師の役割に関する研究」／第31回日本看護研
究学会学術集会（札幌市）、2005年7月、共同。
「分娩場面における産痛をめぐる相互行為の分析—エスノメソドロジーの視点から—」／第46回日本母性衛生
学会学術集会（宮崎市）、2005年10月、共同。
「看護学士力を育む効果的な演習方法」／第30回看護科学学会学術集会（札幌市）、2010年12月、共同。

【研究費】

「母性看護学・助産学領域における教育教材の開発」／科研費基盤研究A 研究成果報告書（2000年度～2002
年度）、2003年3月、共著。